

鮓商

〔紀伊續風土記 物産十〕魚鮓

本國にて魚鮓の製數種あり、中にも府下の雀鮓吉鼠魚兒の鮓をいふ、那賀郡粉河村の香魚の鮓は、近國へ出して其名高し、

〔嬉遊笑覽十上〕江戸鹿子貞享四年、鮓并食すし、舟町横町近江屋、同所駿河屋とあり、只鮓と有は數日漬

たるをいふ、増補江戸鹿子、深川鮓深川富吉町柏屋、御膳箱鮓本石町二丁目伊勢や八兵衛、交、是にても食

物賣し處少きを知らる、温故集、地紙箱木の下間を宿とせば、蓮鮓蓮や今宵の蓋をとらまし貞佐○

寛延ごろの繪、兩國橋廣小路に鮓賣の出たる處を書しに、今の衣食住の記、芝の神明祭禮には、醴涼み臺めくものな置き、其上に賣人居、鮓箱と、旁にあん燈あり、衣食住の記、芝の神明祭禮には、醴

鮓の名物にて、右祭禮の外は常に鮓、あま酒の店賣はなかりしに、芝邊にて醴を賣はじめ、鮓を賣

出し、近年おまんすし、わけて夜のにしき鮓、醴は三國一の名物になる此説おぼつかなし、神明祭

鹿子等に其邊の鮓屋みえず、

〔後は昔物語〕おまん鮓は、寶曆の頃よりと覺ゆ、京橋中橋おまんが紅といふより、居所の地により

て、おまんすしと云たるなるべし、此ころまでも當座鮓を賣、事は稀也、鮓賣といふは丸き桶の薄

きに、古き傘の紙をふたにして、いくつも重ねて、鯨の鮓、鯛の鮓とて賣ありきしは、數日漬たる古

鮓也、

〔守貞漫稿後集一〕鮓

江戸ハ鮓店甚ダ多ク、毎町一二戸蕎麥屋一二町ニ一戸アリ、酢屋名アルハ、屋體見世ヲ置ズ、普通

ノ見世ハ專ラ置之、又屋タイミセノミニテ賣モ多シ、

〔守貞漫稿生業六〕鮓賣

三都トモニ自店、或ハ屋體見世ニテ賣之アリ、唯京坂ニ巡賣之者無之、江戸ニテモ或ハ重ネ筥ニ

納テ肩之、或ハ御膳籠等ヲ擔ギ賣ルモアリ、初春ニハ專ラ小ハダノ鮓ヲ呼賣ル、○中